

『少歯異常の咬合誘導』

中尾 哲之

なかお小児歯科

混合歯列期には、歯の交換に伴って色々な異常の生じる。萌出障害、位置異常、歯の欠損、過剰歯等である。これらの異常は、健全な永久歯列を誘導する際に、様々な悪影響を及ぼすので早期に改善しておく必要性がある。そのような症例に遭遇した場合、出来る限り異常を改善して正常な発育のレールに乗せてあげることが、必要だと考える。今回、何例かの少歯の永久歯の異常に遭遇し、小児歯科的手法でその改善を行った症例を経験したので紹介したい。

症例1.  $\frac{6}{6}$  のシザーズバイト

$\underline{6}$  と  $\overline{6}$  にバンドをかけ、クロスエラスティックで改善

症例2.  $\frac{45}{45}$  のシザーズバイト

上下顎の歯列弓幅を計測すると上顎の値が非常に大きいので、上顎の歯列弓幅を狭めることにする

症例3.  $\underline{7}$  が  $\overline{6}$  にロックされて萌出できていない

$\underline{7}$  にバンドをかけ、 $\overline{7}$  にフックを付けてゴムで後上方に牽引し、萌出誘導する

症例4.  $\overline{5}$  が  $\underline{6}$  にロックされて萌出できていない

$\overline{5}$  の歯胚を被っている歯肉、歯槽骨を開窓後、 $\overline{5}$  の萌出方向を変え、萌出を待つ。萌出後、捻転の改善をエラスティックを使用して行う

症例5. 正中埋伏過剰歯のため  $\underline{1}$  が捻転して萌出

リンガルアーチにフックを付与し、 $\underline{1}$  の唇側にボタンをボンディングする。チェーンエラスティックで改善する